

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3110517号
(U3110517)

(45) 発行日 平成17年6月23日(2005.6.23)

(24) 登録日 平成17年5月11日(2005.5.11)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 G 33/00

F I

A 4 7 G 33/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2005-835 (U2005-835)
(22) 出願日 平成17年2月22日(2005.2.22)(73) 実用新案権者 502448122
有限会社竊城石材
北海道空知郡奈井江町字奈井江36番地4
8
(74) 代理人 100104330
弁理士 杉山 誠二
(72) 考案者 竊城 哲弘
北海道空知郡奈井江町字奈井江36番地4
8 有限会社竊城石材内

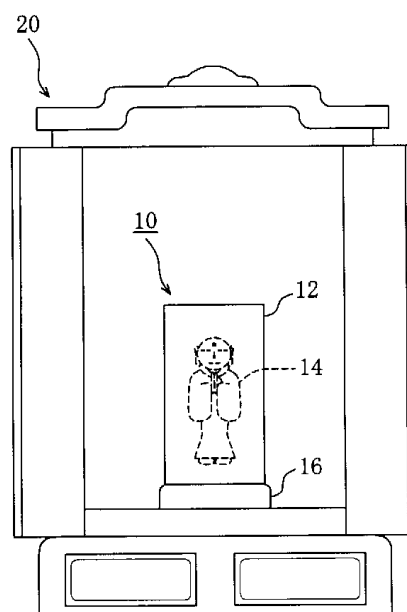
(54) 【考案の名称】 仏像体および該仏像体を収納した仏壇

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】神秘性に富み、年月が経過しても変色することのない仏像体およびこのような仏像体を収納した仏壇を提供することである。

【解決手段】クリスタルの柱体12と、柱体の内部に三次元レーザー装置によって彫り込まれた仏像14とを備えていることを特徴とする仏像体10が提供される。好ましくは、仏像体は、柱体の底部及び/又は頂部に配置され、柱体を下方及び/又は上方から照らし出す光源部16を備えている。また、仏像体が収納される仏壇20が提供される。

【選択図】 図4



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

クリスタルの柱体と、

前記柱体の内部に三次元レーザー装置によって彫り込まれた仏像とを備えていることを特徴とする仏像体。

【請求項 2】

前記柱体の底部及び／又は頂部に配置され、前記柱体を下方及び／又は上方から照らし出す光源部を更に備えていることを特徴とする仏像体。

【請求項 3】

前記請求項 1 又は 2 に記載の仏像体が収納されていることを特徴とする仏壇。

10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、仏像体および該仏像体を収納した仏壇に関する。

【背景技術】**【0002】**

仏壇には通常、各宗派に対応して用意された仏像が安置されている。このような仏像は、木によって形成されているものが一般的である。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】**

20

【0003】

しかしながら、木の仏像は、神秘性に乏しく、年月を経ると変色するなどの課題があった。本考案は、このような状況に鑑みて案出されたものであって、神秘性に富み、年月が経過しても変色することのない仏像体および該仏像体を収納した仏壇を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

本願請求項 1 に記載の仏像体は、クリスタルの柱体と、前記柱体の内部に三次元レーザー装置によって彫り込まれた仏像とを備えていることを特徴とするものである。

【0005】

30

本願請求項 2 に記載の仏像体は、前記請求項 1 の仏像体において、前記柱体の底部及び／又は頂部に配置され、前記柱体を下方及び／又は上方から照らし出す光源部を更に備えていることを特徴とするものである。

【0006】

本願請求項 3 に記載の仏壇は、前記請求項 1 又は 2 に記載の仏像体が収納されていることを特徴とするものである。

【考案の効果】**【0007】**

本考案の仏像体によれば、神秘性に富んだ、見栄えのよい仏像体が提供される。また、光源部を用いて下方及び／又は上方から仏像体を照らし出すことにより、神秘性を一層高めることができる。さらに、本考案の仏像体を仏壇に収納することにより、仏壇にも、神秘性を漂わせることができる。

40

【考案を実施するための最良の形態】**【0008】**

次に、図面を参照して、本発明の好ましい実施の形態に係る仏像体について詳細に説明する。図 1 は、本発明の好ましい実施の形態に係る仏像体を示した斜視図である。図 1 において全体として参照符号 10 で示される本発明の好ましい実施の形態に係る仏像体は、クリスタルの柱体 12 の内部に形成された仏像 14 を備えている。なお、柱体 12 は、純度の高い透明なものが好ましい。

【0009】

50

仏像 14 は、三次元レーザー彫刻装置（図示せず）を用いて、柱体 12 の内部に彫り込まれる。仏像 14 を彫り込むのに用いられる三次元レーザー彫刻装置は、公知のものを使用してよい。

【0010】

三次元レーザー彫刻装置による彫刻は、以下のように行われる。まず、仏像をデザインして、仏像の各部の三次元位置（ x ， y ， z ）データをコンピュータに読み込む。次いで、彫り込むための適切なレーザー光線の圧力と速度を選択して、三次元レーザー彫刻装置に仏像の各部の三次元位置データを送出する。そして、三次元レーザー彫刻装置を作動させて、仏像の各部の三次元位置データに合わせてレーザー光線を照射して、仏像を彫り込む。

10

【0011】

好ましくは、仏像体 10 は、柱体 12 の底部に配置され、柱体 12 を下方から照らし出す光源部 16 を更に備えている。光源部 16 は、LED（発光ダイオード）を用いてもよく、或いは白熱電球などを用いてもよい。図 3 は、光源として LED を用いた場合の一例を示した断面図である。図 3 において、参照符号 16a、18a、18b、18c、18d、18e、18f は、光源部 16 の頂部に設けられた開口、LED 基板、LED、配線、抵抗器、リード線、電源コードをそれぞれ表している。

【0012】

図 4 は、仏像体 10 が収納される仏壇 20 を示している。図 4 においては、仏像体 10 の高さは、仏壇 20 の内部高さのほぼ半分程度であるが、仏像体の 10 の高さを仏壇 20 の内部高さと同程度にしてもよい。

20

【0013】

本考案は、以上の考案の実施の形態に限定されることなく、実用新案登録請求の範囲に記載された考案の範囲内で、種々の変更が可能であり、それらも本考案の範囲内に包含されるものであることはいうまでもない。

【0014】

例えば、前記実施の形態では、柱体 12 が円柱体で形成されているが、柱体を図 5（10'；仏像体、12'；柱体）に示されるように半円柱体で形成してもよく、 n 角柱体（ $n \geq 3$ ）で形成してもよい。また、前記実施の形態では、光源部 16 が柱体の底部に設けられているが、光源部 16 を柱体の頂部に設けてもよく、或いは、柱体の底部と頂部の両方に設けてもよい。

30

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図 1】本考案の好ましい実施の形態に係る仏像体を示した斜視図である。

【図 2】図 1 の仏像体の正面図である。

【図 3】光源部の内部を示した断面図である。

【図 4】仏像体が収納されている仏壇を示した正面図である。

【図 5】柱体が半円柱体で形成されている変形例を示した斜視図である。

【符号の説明】

【0016】

10、10' 仏像体

12、12' 柱体

14 仏像

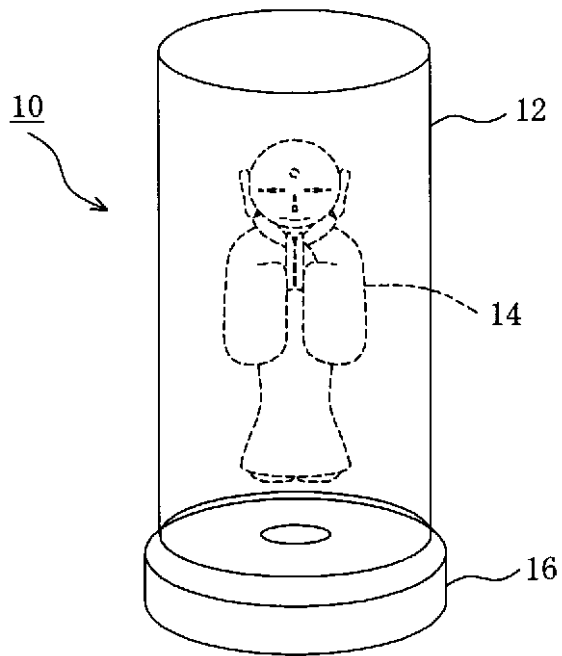
16 光源部

18b LED（発光ダイオード）

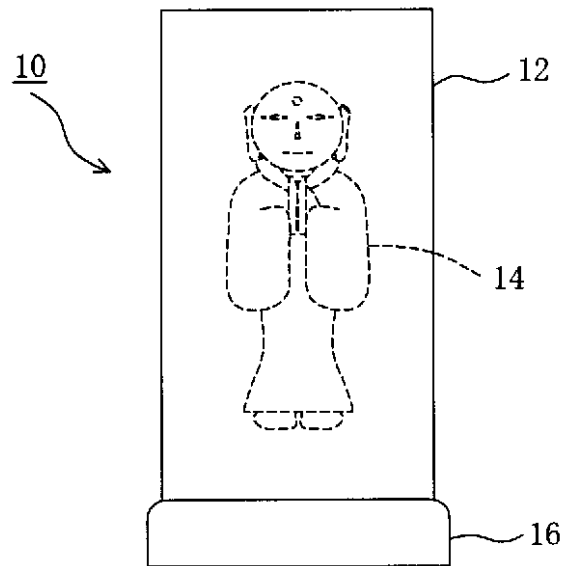
20 仏壇

40

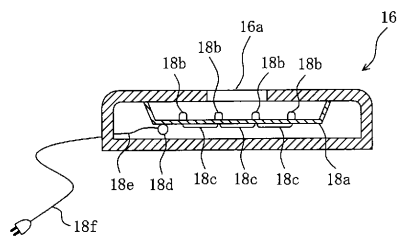
【図 1】



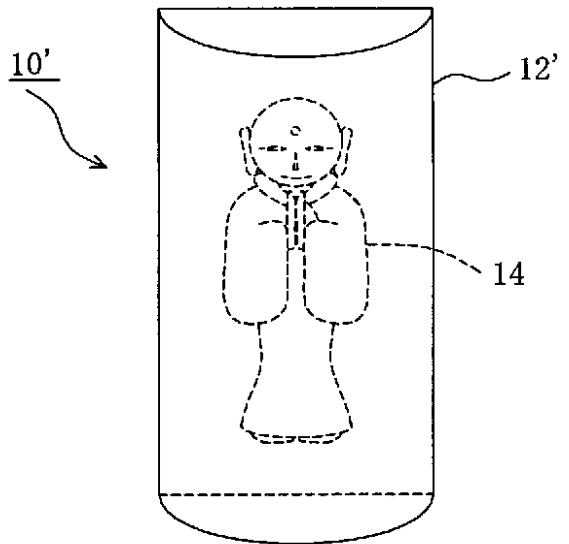
【図 2】



【図 3】



【図 5】



【図 4】

